

兼題 「月」・「秋の七草」 各人三句出句

- 1 白萩や君はなにも悪くない
- 2 虫の音や遠く近くに終い風呂
- 3 うづくまるきじ鳩哀ししぐれ来る
- 4 我が腹は満月なれどまだ欠けぬ
- 5 月見酒今日も楽しみおやじ汁
- 6 瀧に寺秋の七草色映える
- 7 ガクに在りて脩の月は白きかな
- 8 脩絵の瀧名月や十三夜
- 9 名月を語らむとてや稲童に
- 10 灯籠に七草浮かぶ風の盆
- 11 七草やおとといのこともう忘れ
- 12 撫子に触れば指のふるえかな
- 13 稲童へ来たりて集う十三夜
- 14 月を待ち風さわやかに宴開く
- 15 月満ちて今宵の宴さんざめく
- 16 月の宴思ひ出話に杯重ね
- 17 月洗う一人一個の食器かな
- 18 バス停にヤマトナデシコハニカミ座
- 19 稲童でおうす一服月を待つ
- 20 月光や林に臨む林住期
- 21 風吹きて七草揺るる美術館
- 22 満月も闇夜も又よしすすきかな
- 23 三日月に恋しこがれて烏瓜の花
- 24 コスモスも入れてほしいか七草に
- 25 満月に生死を問ふは寂しけり
- 26 十六夜の月や静かに墨を磨る

- 2 7 あの月か盗とつてやるから喰くつてみる
- 2 8 異国にてなでしこたちの月輝く
- 2 9 月満つや内より響く胎の動
- 3 0 映し出せシカゴの孫を月鏡
- 3 1 月の出や波おさまりし水の面
- 3 2 リンボウ先生口ひげ黒き小望月
- 3 3 修羅の目に月の雫の滲みていく
- 3 4 蟻螂も月見ているや石の上
- 3 5 芋掘りて供えて独り十三夜
- 3 6 故夫といるつもり濡縁盆の月
- 3 7 はぎの花嘘のつけない高さかな
- 3 8 月なごむほろよい酒の稲童ギャラリ
- 3 9 孫を抱くニュージールランドの月は北
- 4 0 帰り道雲間に光る初の月
- 4 1 白毫寺萩びやくこうじにさそわれ高台へ
- 4 2 上がりゆく遮断機の先小望月
- 4 3 月見会おむかえに感謝ききようゆれ
- 4 4 薄穂に出しばかりの湿りかな
- 4 5 もう止やめた月に向かって筆を投げ
- 4 6 月明に打ち棄てらるる畠かな
- 4 7 古里や狐狸など遊ぶ月あかり
- 4 8 はぎすすきききようかるかや夢うつつ
- 4 9 一葉の『十三夜』を讀みて後の思ひに
- 桔梗きりぎりすや今宵逢ひたき人のあり
- 5 0 かりそめに埴はにの笛吹く十三夜
- 5 1 すすきとりて川辺の道を帰りけり
- 5 2 満月も丸ごと飲むや大ジョッキ
- 5 3 なでしこの切れ込み深き危さよ

5 4 月照らす庵は男の子の秘密基地

5 5 雲切れて水面みなもに浮かぶお月様

5 6 旅絵師のリユック負い下駄はき月搜す

5 7 旅絵師に月の遅さや下駄の音

5 8 林径を出づれば望の月清きやか

5 9 満月に向かいて放つ立ちゆばり

6 0 満月に過ぎ去りし日々映し出し

6 1 月照らす浜に戯る孫たちよ

6 2 くずの花へくそかづらのからみけり

6 3 手のひらに月を受けたり茶碗酒

6 4 七草や楽の茶碗に塗りの箸

6 5 撫子に夢をたくして北の酒

6 6 青空そらの月眺めつ泳ぐカピタイ湖

以上、6 6句。出句者が一人5句を互選。以下の句が入賞しました。

林望先生にも選をお願いしました。

天賞 上がりゆく遮断機の先小望月 彩子 (5点 含林望先生選)

地賞 はぎの花嘘のつけない高さかな 芳正 (5点)

人賞 旅絵師に月の遅さや下駄の音 館主 (4点)

佳作 十六夜の月や静かに墨を磨する 書家 (3点 含林望先生選)

故夫といるつもり濡縁盆の月 村田 (3点 含林望先生選)

撫子なわに触れば指のふるえかな 美恵子 (3点 含林望先生選)

月満つや内より響く胎の動 彩子 (3点)

ガクに在りて脩の月は白きかな 不知 (3点)

以上、次回までみなさま精進を！